

Daily comment

ドル上昇余地残すも目先は対ユーロでの調整安へ

今週のドルの対主要通貨相場は、米雇用統計発表後の上値を伸ばすことができず、昨日はファニーメイ(連邦住宅抵当公社)の予想を上回る赤字決算で信用収縮問題がなお継続しているとの見方が広がり、全面安となる場面がみられた。

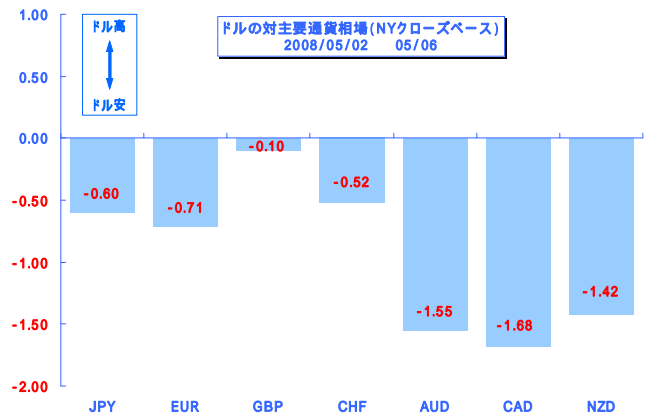
それでも、ファニーメイの幹部が説明会でクレジット市場の混乱は最悪期を脱した可能性があることと述べたことや、米政府がファニーメイに義務付けている自己資本の上乗せ比率を引き下げる方針を発表したことが好感され、米金融株全般の反発に連れてドルも急速に買い戻されている。

ここが金融不安に覆われた3月とは異なるところであり、米国株の投資家センチメント・インディケーターであるVIX指数は5月1日以来4日連続で「安定」を示唆する20以下で推移している。

こうした状況下、外為市場で投機的な売買動向を見る際の指標となるIMM市場(シカゴ国際金融取引所)のヘッジファンドなどの主要6通貨に対するドルのネット総合ポジションは4月29日時点で57.61億ドルの売り越しと、昨年6月19日以来の水準にドルが買い戻されていたことが明らかになっている。

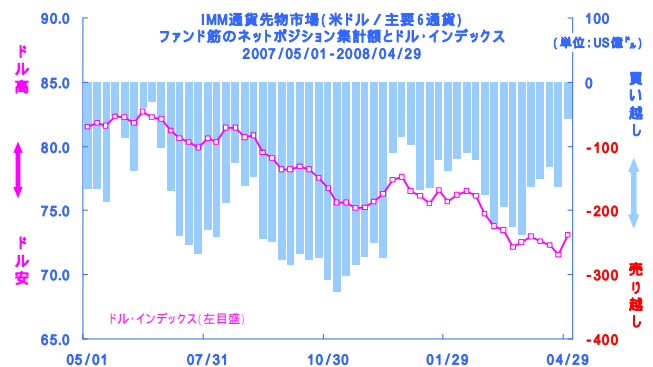
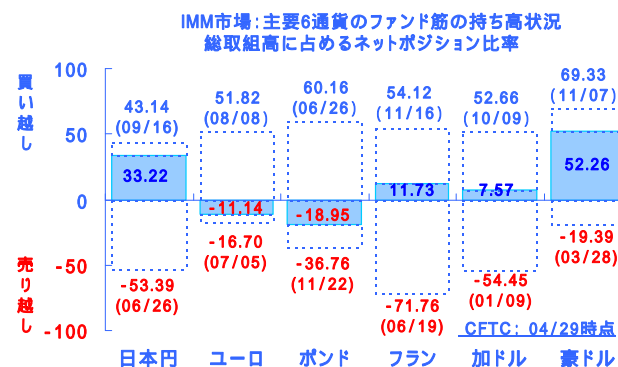
ドル買い戻しを主導したのが『ユーロ』と『英ポンド』であり、ユーロは2005年12月13日以来の売り越しに転じている。

これに対して『日本円』は、意外にもロングの再構築とショート・カバーにより、買い越し額が3月25日以来の水準に拡大している。

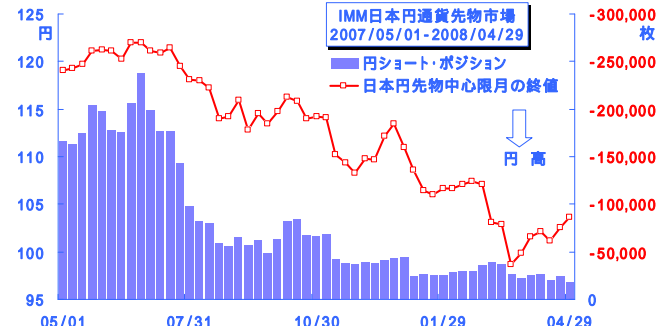
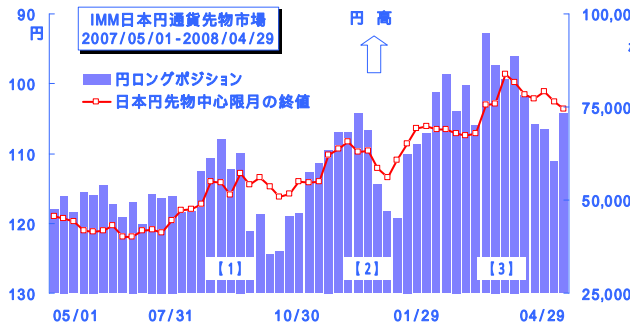
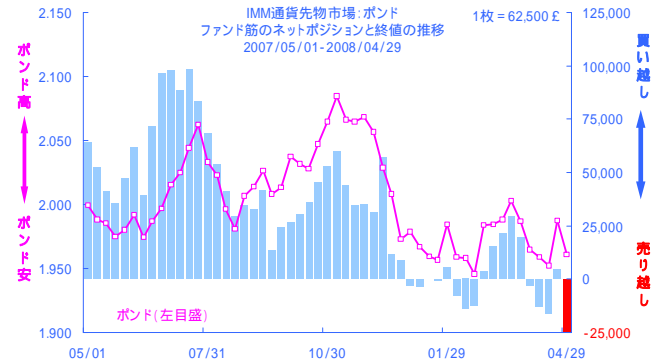
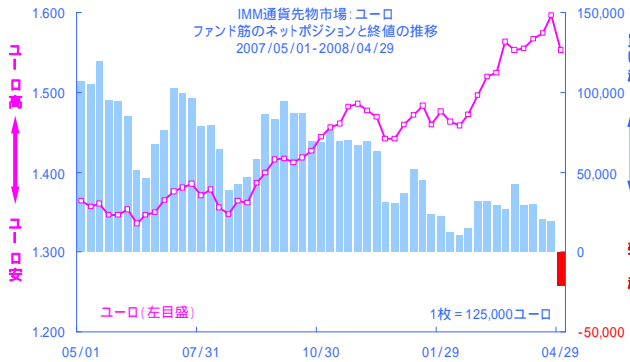


IMMファンド筋: 主要6通貨に対するネットポジション状況(4月29日時点)

通貨	ネットベース	継続期間(週)	取組高占有率	過去6年のピーク
日本円	買い越し	07/11/13 ~ 25週	33.22%	43.14% 03/09/16
ユーロ	売り越し	08/04/29 ~ 1週	-11.14%	-16.70% 05/07/05
英ポンド	売り越し	08/04/29 ~ 1週	-18.95%	-36.76% 05/11/22
スイスフラン	買い越し	08/03/18 ~ 7週	11.73%	54.12% 04/11/16
カナダドル	買い越し	07/05/01 ~ 53週	7.57%	52.66% 07/10/09
豪ドル	買い越し	06/06/27 ~ 97週	52.26%	69.33% 06/11/07



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。



こうした米雇用統計発表前の円ロングの急拡大が、先週末のドル高・円安の原動力(ロングのアンwind)になったものと推測することができよう。

IMM ファンド筋は、引き続き膨大な円ロングを抱えた状態にあり、持ち高解消ニーズに直面している一方、円ショートは十分な拡大余地を有しており、一段のドル高・円安の可能性は否定できない。

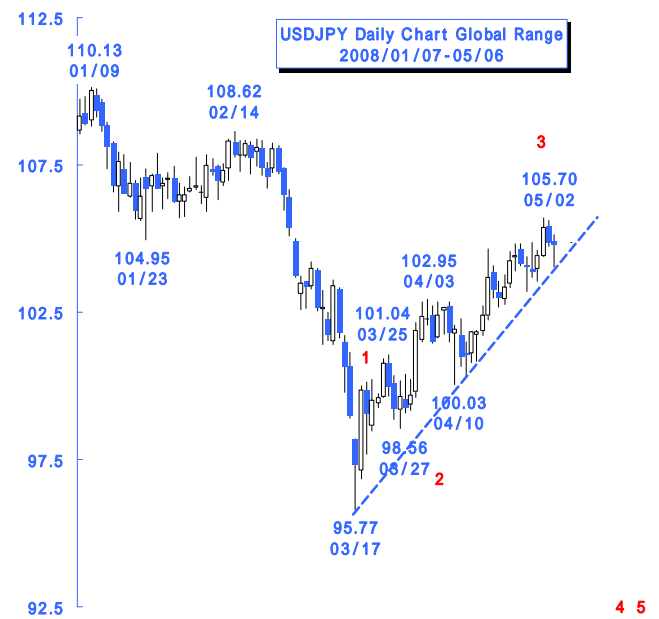
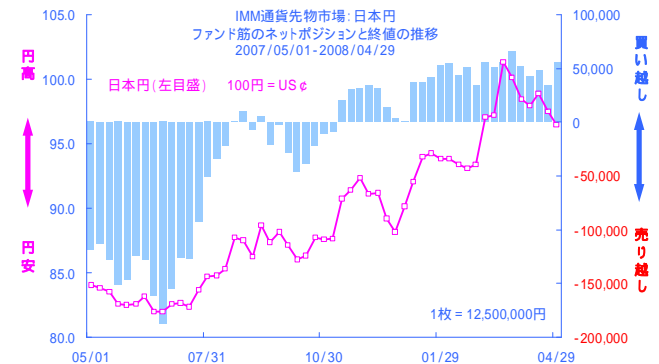
特にドル/円は、波動ルールに基づく戻り売りの急所とした 104.95 円処を明確に上抜いたことにより、95.77 円(03/17)を起点とするドル高・円安が修正波(a-b-c)ではなく 5 波構成となる可能性が高まっている。(筆者のこれまでのラベリングが誤っていたことになる)

昨日の安値 104.02 円は、95.77 円(03/17)と 100.03 円(04/10)を結ぶ上昇トレンドラインでサポートされており、ここが NY クローズで破られない限り押し目買い基調が続くものと観測される。

仮に上昇トレンドラインが破られたとしても、修正の波としての位置付けとなるため、波のトップである 102.95 円(04/03)には抵触しないとの見方もできる。

ドル/円の動向を見る上で注目したいのが、ユーロ/ドルであり、ユーロ/ドルは先週末の安値 1.5360 ドルから上昇に転じている。

エリオット波動分析ではチャート上のラベリングが示すように、1.5360 ドル(05/02)が A 波のボトム(1.5360 ドル = 38.2% of 1.4310 1.6020)とすることができ、足元では B 波の修正高が進行中であると捉えることができよう。

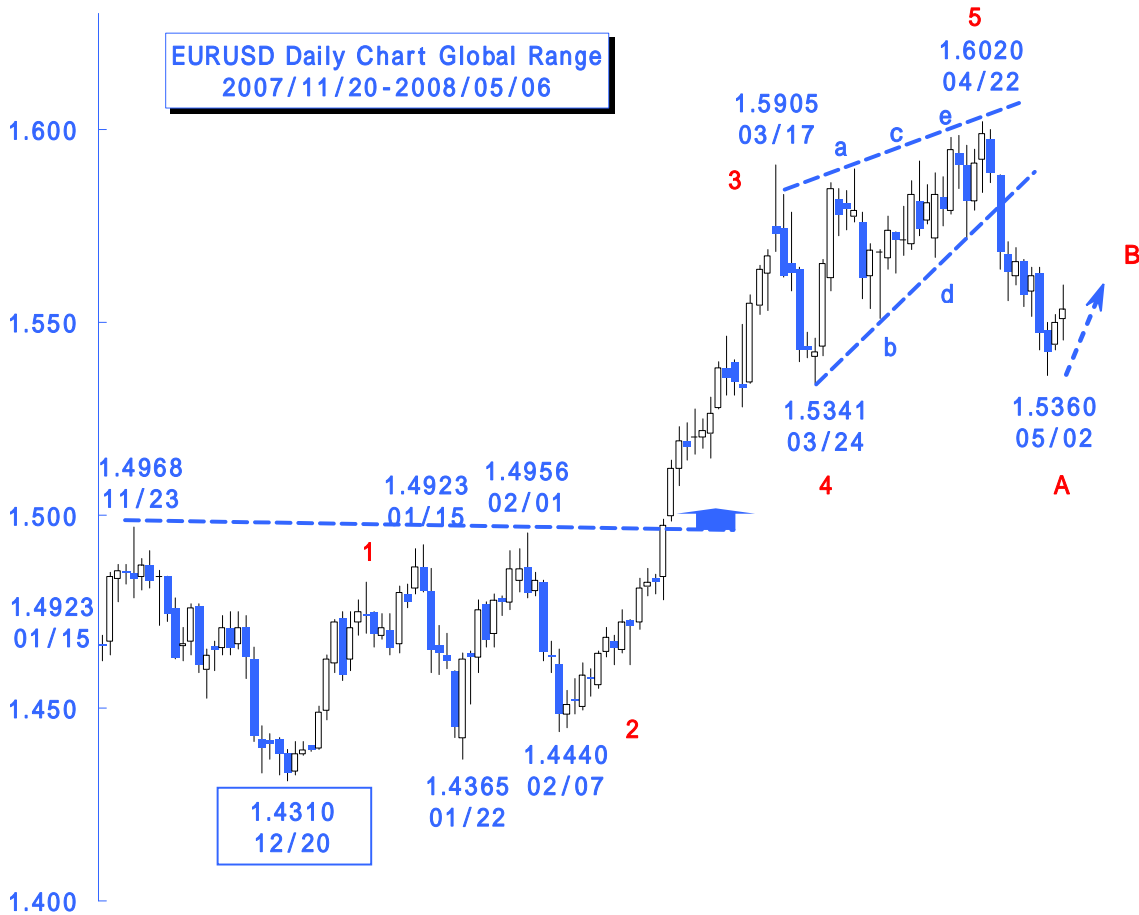


当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。

B波はA波動の0.382～0.618戻しが一般的であり、これを単純に当てはめると38.2%で1.5612ドル処、61.8%で1.5768ドル処となってくる。(昨日のユーロ/ドルの高値は1.5595ドルであった)

そして、B波の戻り高値を付けたあとにはC波の下落波動が続くことになり、この段階でドル/円はユーロ/ドルでのドル高とユーロ/円での円高の綱引き相場が想定されることになる。

(5月7日 11:05 記)



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。